

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校訓である「自主協同・自律責任・質実剛健・言行一致」を規範とし、自由で伸びやかな校風のもと、豊かな人間性と社会性を伸長し、知・徳・体の調和のとれた個性あふれる有為な人材を育成する。
(2) 現状と課題	本校では農業教育や寮教育を背景に各種検定等の資格取得、農業クラブ活動、生徒会活動や部活動等に積極的に取り組むことができる恵まれた教育環境のなかで、チャレンジ精神旺盛なたくましい生徒が活動している。しかし、自己の進路に対する意識がやや希薄であったり、学習習慣や基本的な生活習慣が確立されていない生徒も見られる。
(3) 重点目標	1. 学力の向上と自己教育力の育成を図る。 2. 個に応じた生徒指導の充実と保健・安全教育の実践に務める。 3. キャリア教育の実践と進路目標の実現に努める。 4. 魅力ある専門教育の充実と開かれた学校づくりの実践に努める。
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載し、保護者や学校関係者に公表するとともに広く一般にも公表する。

学校整理番号	43
学校名	青森県立三本木農業高等学校
全日制の課程	校舎

自己評価実施日	令和 3年 1月15日(金)
学校関係者評価実施日	令和 3年 2月10日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員会の場で評価していただいている。 学校評議員の構成：保護者代表1名、学識経験者（農業機関・高校教育）各1名、地域農業経営者1名、同窓会代表1名の計5名。

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	授業の充実と基礎学力の向上	(1) 校内外の研修に積極的に参加することで教員の指導力の向上を図る。 (2) 授業アンケートを実施し、課題を発見し授業改善を図る。 (3) 朝読書の時間を活用して、基礎学力の向上を図る。	(1) 校外の研修については、図書研修部が研修案内を行い参加を促した。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者は少なかった。 (2) 年に2回授業アンケートを実施した。5点満点中、概ね4.0～5.0という好結果であった。 (3) 落ち着いた雰囲気での授業を開始することができる朝読書の時間で週3日ドリル（国、数、英）を実施し、一人ひとりの学力向上に効果を上げている。また、国語科が中心となって、全校生徒対象の国語基礎力テスト(年間6回)を実施した。	B	学校評議員による学校評価では、「学科の特徴を生かした教育がなされている」「わかりやすい授業がなされている」の2項目で5段階で平均4.4という評価を得た。	朝読書の時間に、ドリルを活用しているが、国語基礎力テストを引き続き実施する。 普通科生の入学に伴い、さらなる学習指導の工夫や指導体制の整備が必要である。

2	基本的な生活習慣の確立と生徒理解の充実	<p>(1)年間を通して容儀服装指導を実施し、規律ある生活習慣を育成する。</p> <p>(2)登校指導や個人面談を実施し、生徒の日頃の生活状況を把握する。</p> <p>(3)スクールカウンセラーと連携し、生徒の教育相談の充実を図る。</p>	<p>(1)学期ごとに容儀服装指導を全教員で実施した。また、再検査も実施することで効果が見られる。</p> <p>(2)毎朝生徒指導部を中心に、全教員が当番制で登校指導にあたり、生徒への声掛けやバスの乗車指導を行った。生徒の挨拶も元気になり問題行動の減少に効果が見られている。</p> <p>(3)スクールカウンセラーに（年間19回）来校していただき、悩みを抱えた生徒や教職員とカウンセリングを実施した。スクールカウンセラーの的確なアドバイスにより、生徒、教職員とも貴重なサポートを受けることができた。</p>	A	<p>全教職員が生徒一人ひとりに目をかけて指導にあたることで生徒達は充実した学校生活を送っている。3年間で心身ともに大幅な成長ぶりが見受けられる。</p> <p>学校評議員から「学校アンケートの結果から学校への期待度・満足度の高さを感じる」とい評価をいただいた。</p>	<p>教職員の生徒に対するきめ細かい指導によって、服装や挨拶など規律ある生活習慣が確立され落ち着いて教育活動に取り組む教育環境が整っている。</p> <p>次年度も生徒指導に関する取り組みを継続しながら一層の改善を図りたい。</p>
3	開かれた農場運営とプロジェクト学習の充実	<p>(1)見学や農場体験学習を積極的に受け入れ、地域に貢献する。</p> <p>(2)教職員が新技術に対応した研鑽を心がけ、プロジェクト学習の充実を図る。</p>	<p>(1)感染症対策を行いながら苗の販売、アンテナショップの開店、農場見学、農場体験学習などを行った。体験学習で案内及び指導するナビゲーターの生徒たちは、社会性やコミュニケーション能力が高まっている。</p> <p>(2)少数であったが、学校訪問・施設見学をはじめ、各種研修会に教職員が参加し、知識技術の研鑽を深めている。</p>	A	<p>コロナ禍の中での実施であったが、学校評議員からは、上北の農業のすばらしさを伝えながら、よい研究を行ってほしいという意見をいただいた。</p>	<p>校内プロジェクト発表会は校内のみで実施したが、生徒の学習活動を見ていただく良い機会であるため、次年度は保護者や中学校、関係機関等も含め広く呼びかけていくことを考えている。</p> <p>校内外の研修や視察については、今年度に引き続き、計画的に教員の積極的な参加を促したい。</p>
4	キャリア教育の推進	<p>(1)各学科ごとのインターンシップや職場見学及び関係機関と連携した研修会等を実施する。</p> <p>(2)進路だよりを作成し、生徒や保護者に進路情報を提供する。</p>	<p>(1)1年生は、現場見学や施設見学の実施。2年生は、インターンシップの実施。そして、3年生は、職場訪問の実施と計画的に実施することができた。</p> <p>(2)3年生用と1、2年生用の2種類の進路だよりを発行し、進路に関する情報の提供と意識の喚起をすることができた。またホームページにもアップし情報の発信を図っている。</p>	B	<p>学校評議員による学校評価では、「生徒の進路達成を助ける取り組みが充実している」の項目で高い評価を得ている。しかし、保護者の中で「そう思わない」「あまりそう思わない」が合わせて29%いた。</p>	<p>農業高校としての特性を生かし、地域の方々や企業・大学・専門学校等と連携し、生徒の社会的・職業的自立に向けた教育活動を実践しているが、これまで以上に多くの関係機関と連携して学年ごとに、より充実した進路指導活動を計画的に行っていく。</p> <p>普通科設置に伴い、生徒に対する一貫した進路指導体制を構築する。</p>
(11) 総括	<p>教職員自己評価(1月実施)、保護者による学校評価(12月実施)、生徒の授業評価(12月実施)、分掌ごとの自己評価(1月実施)を参考資料とした。評価に関する職員会議(2月実施)を開催し、全教職員で振り返りと課題を話し合い次年度の目標作成に繋げた。学校評議員会(2月実施)で頂戴した学校評価についての意見・提言をもとに、次年度更なる改善と教育活動の充実に努めたい。</p>					